

# 安心安全につながる防災対策

## ■効果の見える治水事業

### 高知県 摺木海岸津波・高潮危機管理対策緊急事業

高知県須崎土木事務所長 木 康博



#### <地域の概要>

摺木海岸は高知県のほぼ中央部の須崎市浦ノ内に位置している延長460mの海岸です。背後には人家、地区集会所、県道須崎仁ノ線が控えており、これまで昭和21年の南海地震による津波被害や昭和45年の台風10号に伴う高潮被害などを受け、また、今後高い確率で発生する東南海・南海地震でも津波による被害が懸念される地域です。

#### <事業の概要>

前述のとおり当海岸の背後には人家、地区集会所、県道須崎仁ノ線が控えており、摺木水門は防災対策上非常に重要な役割を果たしています。

しかしながら当水門は昭和53年度に築造されたもので、自重降下機能がないため水門操作を受託している地元住民は台風等の高潮発生時や津波注意報及び警報が発令された際には建屋へかけ上がり、発電機を起動し、閉鎖するまでの一連作業に約15分を要していました。

このため津波等における円滑な操作を確保し、水門を確実に閉鎖し津波等の浸入を防ぐことを目的として、平成22年度に津波・高潮危機管理対策緊急事業で当水門の改良を実施しました。

この改良により屋外操作盤の押ボタンで門扉が自重降下し、約2分で閉鎖可能となり、受託者による操作時間の大幅な短縮及び労力の軽減が図られ、当事業完成後に発生した7月の台風6号の際には安全で速やかな操作ができました。

今後も引き続き地元住民と一体となって地域防災の推進に努めたいと考えています。

位置図

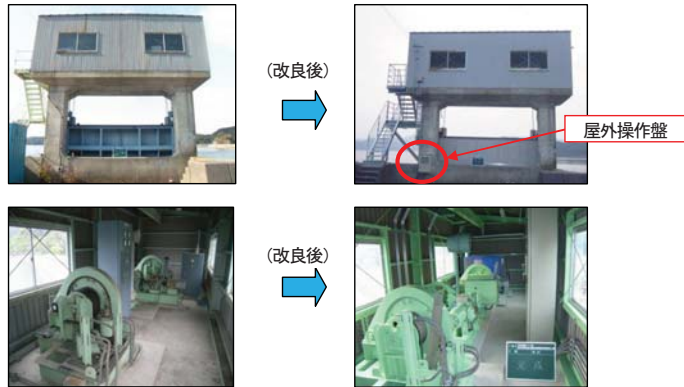
摺木海岸

摺木海岸平面図

摺木水門

事業概要

- H22年度施工
- 事業費33百万円
- 工事内容
  - ・鋼製扉体からSUS扉体へ交換
  - ・開度計、操作盤等の機器の更新
  - ・自重降下機能追加 等



須崎市長 笹岡 豊徳



須崎市は高知県のほぼ中央部に位置し、県都高知市から西に約37kmにある高幡地域の中核をなしている地域です。

高知県は全般的に山岳丘陵地帯が多く、市の西部を流れる新荘川は、1974年に日本で最後にニホンカワソウの息舎が確認され、又、きき鮎日本一になったこともあるほどの澄み切った水量豊かな清流としても有名です。

また、東部に位置する浦ノ内湾は土佐市との市界を湾の入り口とし、入り江を形成し自然豊かなリアス式海岸となっており、鯛やカンパチの養殖が盛んに行われています。湾の南には黒潮ラインが半島を縦走しており、眺めは秀逸で、南にはくろしお踊る太平洋が見渡せ、北に目を転じると静かな横浪三里の浦ノ内湾の眺望が楽しめます。

前述のように須崎市は自然豊かな地域ですが、その一方で、地形的な特性から津波の影響を受けやすく、これまでも684年の白鳳地震以来、歴史に残るだけでも9回の地震津波により尊い生命や財産が奪われるなど甚大な被害が発生しています。

また、3.11の東日本大震災におきましては人的な被害はなかったものの住宅の床上浸水などの被害が発生し、漁船の転覆、養殖こわりが破損、流出するなどして23億円もの大きな漁業被害が発生しました。そのほか、津波が河川を遡上し浸水するなどの被害の報告もあったことから、水門の重要性を改めて認識し、津波発生後、県に対し桜川と押岡川の河口下流部に水門の設置をお願いいたしました。

それにあわせ、これまで取り組んできた津波漂流物対策についてもあらたに漁船を漂流物にしないための対策を検討するため、須崎市津波防災・漂流物対策専門委員会を開催し10月を目処に方向性を定めることとしています。

水門、門扉の開閉点検は毎年6月初旬に実施をしておりますが、今回、浦ノ内摺木の水門の改良により開閉の電動化がされたことから管理委託を受けた住民が短時間で操作完了でき、津波や台風、高潮時等において迅速な対応ができることから地域住民にとっても非常に心強く感じられ、安心して生活できる地域になっていくと考えています。

また、須崎市としても地域の安心安全につながるような防災対策を行っていきたいと考えています。



水門の点検実施



津波で破損した養殖こわり